

1) の元過ぎれば、先に、スペインインフルエーザの流行が過ぎ...

「新しい生活様式」それは長くは続かないのではないだろうか...

2) でも、変わっていく部分も、でも、この経験で変わることも確実にありそうです...

それは特に働き方や学びの面で目立つてきているように思われます。IT化やリモート化により、オフィスではないところでの仕事...

3) コロナ制御時代のウイルス感染症との付き合い、もしコロナ制御時代に入った場合、私たちの多くがインフルエーザワクチンとコロナワクチンを受けなければならない...



諏訪中央病院 副院長 高木宏明

考察「ビヨンド・コロナ」(中)

この災禍をくぐり抜けて私たちは何を獲得していくのか？

寄稿

があれば薬を飲む、などの対応をします。これは基本的にインフルエーザのときに取られる行動と同じです。

4) そして今回考えて行った3つの作業のこと、私たちは今回のこのコロナ禍においていろいろなお話を聞きました。それらは忘れずにコロナ制御時代に活かされていく必要があるでしょう。

7 「価値あるもの」を捉えなおす、1) コロナ来襲前の社会と生活、スペインインフルエーザパンデミックに見舞われて100年。

この間に経済と人の行き来のグローバル化が進み、先行きは混雑と混み合っていたと言え、私たちは物に囲まれた豊かな生活を送ってきました。

3) 自粛、あるいは引きこもり生活の中で、多くの人が休業や隔離や自粛のために「家」で過ごす時間が増えました。

4) 「価値あるもの」を捉えなおす、私たちが何に価値を置いて「コロナ制御時代の生活と社会を創造していけばいいでしょうか。

スーパーの入り口



入る時 持ち込まないために手を消毒してね、出る時 持ち帰らないためにもう一度消毒してね

2) コロナ流行で見たこと、わかったこと、新型コロナウイルス感染症の流行で、社会のいろいろな機能がストップしてしまっている...

結果、今回の新型コロナウイルス感染症流行で分かったことは、国民皆保険を自慢してきた私たちの国の医療や保健の機能が意外と脆弱であり、検査体制も不十分、医療用の器材・材料もかなりの部分が海外に依存している...

さらに仕事に言及すれば、「働き方改革」の前には「働くこと」が現代においてはいかに不安定なものであるか、よく分かっていました。

「家」で過ごす時間が増えました。「家で過ごす時間」：私たちはどうしようとしていたのでしょうか。

それは例え、生活を形作ることでできる基礎であり、その生活を潤し癒し豊かにする社会的共通資本(宇沢弘文)。

2) 暮らしの中でつながらぬこと、私たちが何に価値を置いて「コロナ制御時代の生活と社会を創造していけばいいでしょうか。



ビヨンド・コロナ 諏訪地域の未来は？

と、さらには個人、地域が、国がお互いの多様性を認め合い、コロナウイルスの前にみなが一列であり、いがみあうことなく、尊敬し合い連携すること...

2) 共感と思いやり、あまりにも陳腐なフレーズですが、今回のコロナ第一波で見られた集団心理・社会心理にはいろいろなものがありました。

3) 自由：特に移動の自由、コロナ第一波の緊急事態宣言、あるいは海外のロックダウンでは自由が制限されました。

4) 死者への敬意、法律によるものとは言え死にゆく大切な人と会うことができない、死に際の際の枕元立つこともできない野辺の送りをするのもできない、というのはいったい許されるのでしょうか。

1) コミュニケーション：マスクは表情を奪う、コミュニケーションには私たちの五感が動員されます。それは言葉、その内容やイントネーション、声色や抑揚を通して、あるいは表情や身振り・手振りなどと言葉以外のものなどを使って、私たちは実に豊かなコミュニケーション能力を日々発揮して人との関係を持ち、生活してきました。

2) 暮らしの中でつながらぬこと、私たちが何に価値を置いて「コロナ制御時代の生活と社会を創造していけばいいでしょうか。